

2. 広島市の現況

(1) 地域の概要

広島市は広島県西部、瀬戸内海沿岸の中央からやや西よりに位置しています。中国山地を背にしており、山地部が市域面積の3分の2近くを占め、三方から平地部を取り囲んでいます。平地部は、太田川の河口デルタを中心とし、デルタ市街地には6本の河川が流れています。北部に向かっては太田川の本・支流と八幡川沿いに、東部に向かっては、瀬野川沿いに細長く開けています。その他の大部分は、比較的急峻な大小の山が連なる林野でおおわれています。また、南部の広島湾には、多数の島があります。

広島市は、江戸時代から商業活動が活発に行われ、軍都・学都の性格を持った近代都市として発展してきました。しかし、昭和20年(1945年)8月6日、原子爆弾により壊滅的な打撃を受け、多くの人命と町を失いましたが、戦後のめざましい復興により、現在では、人口約110万人を有す、中国・四国地方の経済、文化、行政の中心である中枢都市として発展を続けています。

(2) 高齢者、身体障害者の状況

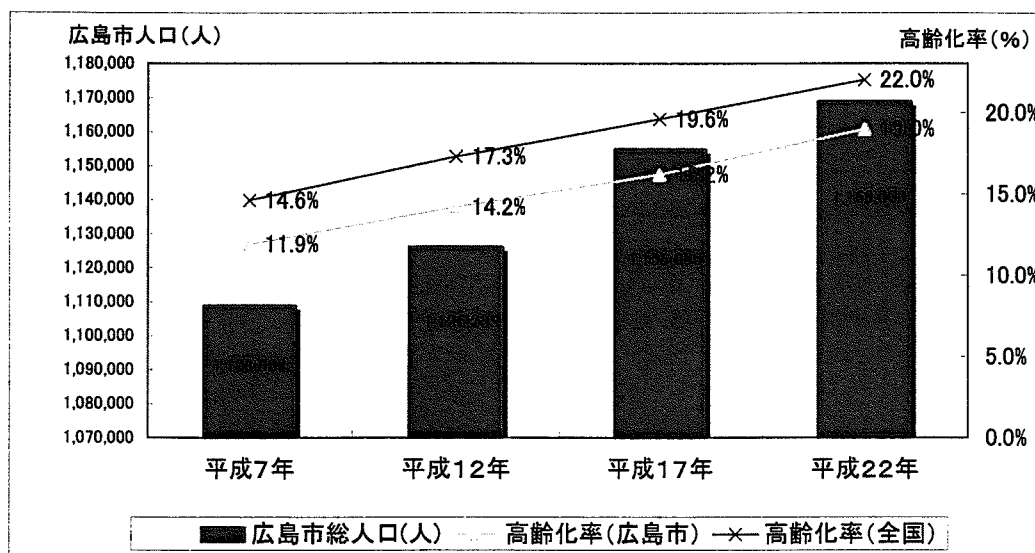
全国的な少子高齢化の中、広島市においてもその傾向は同様であり、人口の高齢化は急速に進んでいます。本市全域の総人口に対する高齢者数(65歳以上の人口)の割合である高齢化率をみると、平成12年(2000年)では14.2%を占めています。

また、平成22年(2010年)には、総人口116.9万人に対して、高齢化率は19.0%を占めると推測されています。

広島市の高齢化率(65歳以上の人口割合)の推移

	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)
総人口(人)	1,108,888	1,126,239	1,155,000	1,169,000
65歳以上(人)	131,840	160,181	187,000	222,000
高齢化率	11.9%	14.2%	16.2%	19.0%
高齢化率(全国)	14.6%	17.3%	19.6%	22.0%

(数値データは国勢調査による。平成17年(2005年)及び平成22年(2010年)は企画総務局の推計値)



広島市の身体障害者数は、平成13年(2001年)3月現在で、31,640人(対総人口比率:2.82%)となっています。また、身体障害者数は年々増加傾向にあり、平成18年(2006年)には34,943人(対総人口比率:3.0%)にのぼると予測されています。

身体障害者数を年齢別に比較すると、65歳以上の高齢者が著しく増加しており、今後の身体障害者の著しい高齢化が予測されています。

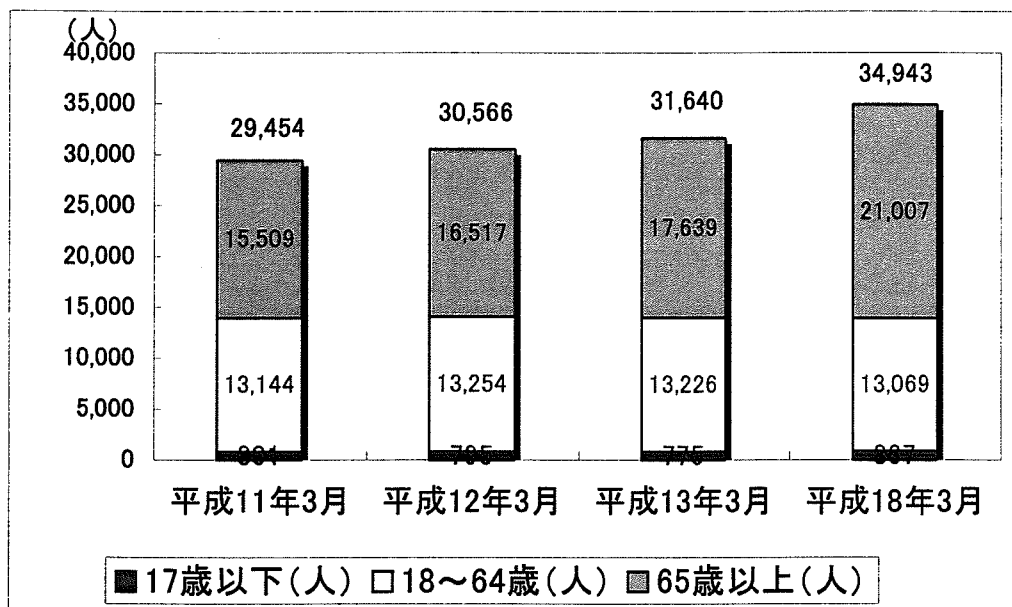
障害の等級別内訳をみると、重度障害者の伸率が大きく、重度化傾向にあります。

障害別では、肢体不自由者と内部障害者の割合が多く、また伸率も顕著となっています。

年齢階層別身体障害者人口推移

	平成11年 (1999年)	平成12年 (2000年)	平成13年 (2001年)	平成18年 (2006年)
総数(人)	29,454	30,566	31,640	34,943
17歳以下(人)	801	795	775	867
18~64歳(人)	13,144	13,254	13,226	13,069
65歳以上(人)	15,509	16,517	17,639	21,007

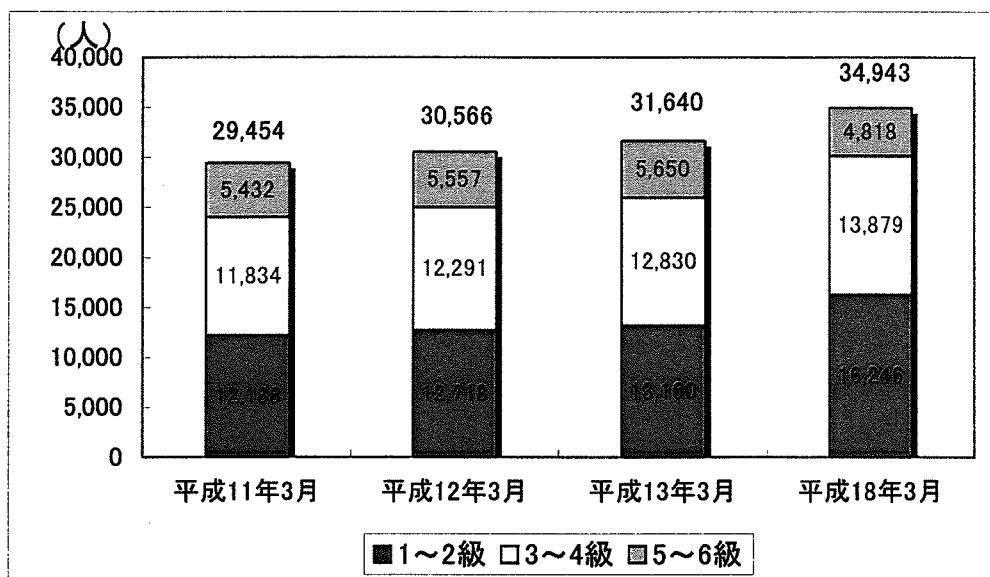
(資料は広島市社会局調べ。平成18年(2006年)は社会局の推計値)



等級別身体障害者人口推移

	平成11年 (1999年)	平成12年 (2000年)	平成13年 (2001年)	平成18年 (2006年)
総数(人)	29,454	30,566	31,640	34,943
1～2級	12,188	12,718	13,160	16,246
3～4級	11,834	12,291	12,830	13,879
5～6級	5,432	5,557	5,650	4,818

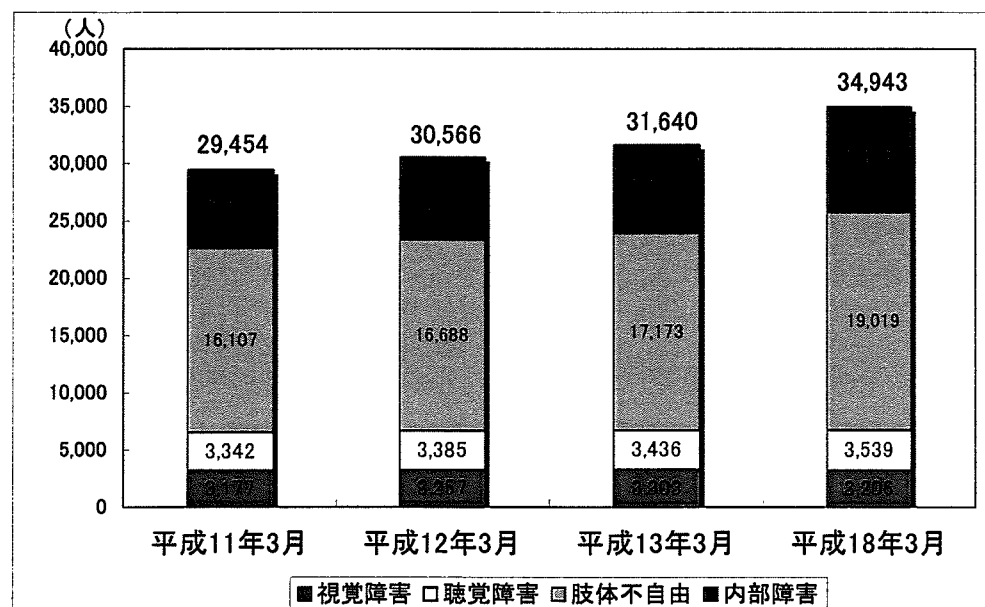
(資料は広島市社会局調べ。平成18年(2006年)は社会局の推計値)



障害別身体障害者人口推移

	平成11年 (1999年)	平成12年 (2000年)	平成13年 (2001年)	平成18年 (2006年)
総数(人)	29,454	30,566	31,640	34,943
視覚障害	3,177	3,257	3,303	3,206
聴覚障害	3,342	3,385	3,436	3,539
肢体不自由	16,107	16,688	17,173	19,019
内部障害	6,828	7,236	7,728	9,179

(資料は広島市社会局調べ。平成18年(2006年)は社会局の推計値)



(3) 公共交通機関の現況

ア. 交通事情

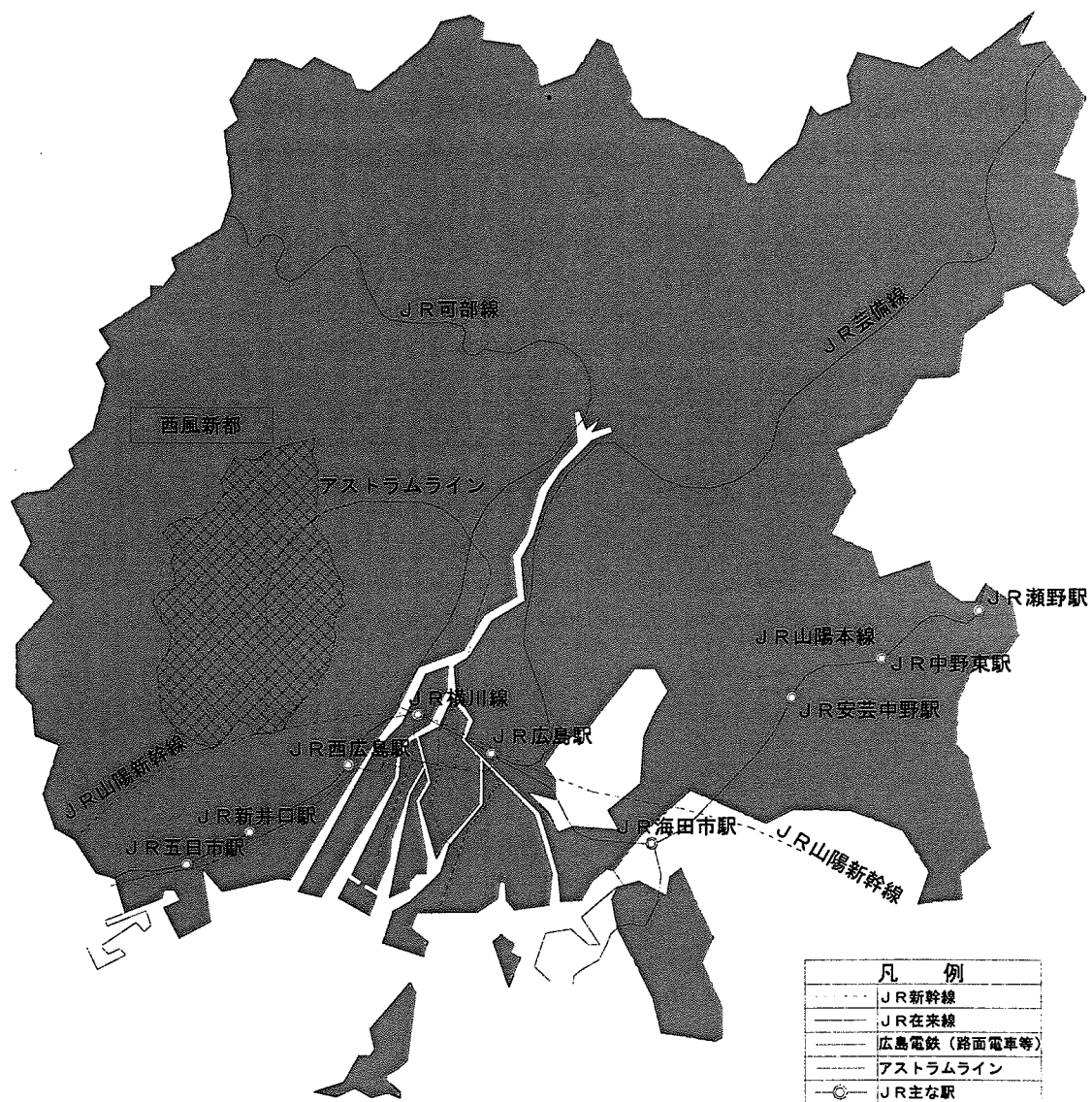
広島市域の都市交通は、広域交通を担うＪＲ（鉄道）のほか、第三セクターが運営するアストラムライン（新交通システム）、民間企業が運営する路面電車やバスなど様々な公共交通機関によりサービスが行われています。

このうち、鉄道は、広島駅から東西方向に伸びるＪＲ山陽新幹線及び山陽本線を中心にネットワークが形成されています。

路面電車は、デルタ市街地にネットワークが形成されており、広島湾の西岸を郊外に伸びる宮島線との直通運行も行われています。運行形態は7系統、総営業キロは18.8kmで、その間に約60ヶ所の電停があり、電停間の距離は約340mと高密度の配置となっています。

バスは、都心から郊外への放射型の路線網を形成しています。バスの走行を円滑にするため、バス専用レーンの設置などのバス優先対策を実施しています。

アストラムライン（新交通システム）は、都心の中区紙屋町から市北西部地域の拠点である西風新都までの18.4kmで運行しています。



公共交通機関の路線網